

教科用図書の調査研究報告書（総括）

種目名	音 楽
-----	-----

発行者	総合的な所見
教 出	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①各教材に「音楽のもと」として、学習の手がかりとなる音楽要素が明記されている。また、キャラクターの吹き出しなどで、児童に気付かせたいポイントが明記されている。</p> <p>②歌詞のイメージを膨らませながら歌えるよう示されている。</p> <p>③リコーダーの指導事項がスモールステップで示され、階名ごとに写真が挿入されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①和音のひびきの旋律づくりでは、4小節の旋律をつくる際の参考となるよう例が示されている。</p> <p>②巻頭の部分で表現者の音楽に対する思いを学習者に語りかける形で示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①日本古来の歌の学習と、世界の音楽の学習を比較し、それぞれの文化のよさに気付けるように示されている。</p> <p>②QRコードを読み取り、鑑賞ができるようになっている。タブレットの見方についての注意が常に示されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」と表し、要素を表すいろいろな言葉も明記されている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①自分の感じ方や考え方を深めていく場面の設定がされている。感じ方の違いを表現できるように、QRコードのリンク先に書き込めるようになっている。</p>

教 芸	<p><b>第1の観点</b></p> <p>①学習の流れが「見つける」「考える」「歌う/演奏する」のようにパターン化されていることに加え、それぞれの学習内容が明記されている。</p> <p>②歌詞の解釈と歌い方の工夫が明確に示されている。</p> <p>③写真を用いて、リコーダーの各部の名称やリコーダーの種類等も示されている。</p> <p><b>第2の観点</b></p> <p>①和音つくりのために書き込むスペースを取り、作成できるようになっている。</p> <p>②巻頭の部分で表現者が学習者に伝えたいことをキーワードで示されている。</p> <p><b>第3の観点</b></p> <p>①日本の各地域に伝わる音楽に親しんだり、調べ学習をしたりできるように示されている。</p> <p>②QR コードを再生するとシンプルな音源を聞くことができるようになっている。リズムの記号で演奏できるように示されている。</p> <p><b>第4の観点</b></p> <p>①音楽を形づくっている要素が振り返りのページにまとめて示されている。</p> <p><b>第5の観点</b></p> <p>①自分の感じ方や考え方等を深めていく場面が示されている。</p>
-----	---